

令和4年度第1回青森市健康福祉審議会地域福祉専門分科会 会議概要

1 開催日

令和4年8月26日（金）

※本審議会は、新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、書面をもって開催することとしたため、意見等回答書の提出をもって出席とする。

2 開催方法

書面開催

3 会議内容

（1）組織会

ア 専門分科会長の選出

イ 職務代理者の指名

（2）報告

ア 青森市地域福祉計画の取組状況について

4 会議結果

（1）組織会

委員による互選の結果、児玉 寛子委員が会長に選出され、三浦 裕委員が職務代理者に選出された。

（2）報告

青森市地域福祉計画の取組状況について

意見あり 2 意見なし 12

※意見等及び回答については別紙のとおり

5 意見等回答書の提出委員数

14名

出席委員数が半数以上のため、青森市健康福祉審議会条例第7条第2項に基づき、分科会の会議は成立した。

令和4年度第1回青森市健康福祉審議会 地域福祉専門分科会
意見等と回答について

○青森市地域福祉計画の取組状況について

【質疑・意見】

No.	資料	質疑・意見	回答
1	第5章	○地域ケア会議の開催について 基幹型包括が開催した回数と、各包括主催の会議へ推進員が参加した回数を知りたい。 開催した実態は不明、もしくは、各包括会議開催の後方支援はどの程度か。	令和3年度に基幹型地域包括支援センターが開催した地域ケア会議は2回、各地域包括支援センター主催の地域ケア会議に地域支え合い推進員が参加した回数は26回です。 基幹型地域包括支援センターでは、各地域包括支援センターが開催する地域ケア会議に39回参加し、会議に関するアドバイスをを行ったほか、関係機関との調整や地域ケア会議に関する研修を行うなどし、地域包括支援センターへの支援を行っています。
2	第3章	会議の主な内容の事例について、他人事ではあるけど市民の一人としてホット安心したところ。この様な問題を抱えている人（家族）達は多くいる。私も時々相談相手になる事も有る。 今世は、この様なケースをはじめ、高齢者の1人暮らし、高齢によるひきこもり等有るが、この様な人達の気持（心の悩み）は、実際経験した当事者、家族等でなければ本当の心の内は判らない。 そこで行政では、ピアサポーター養成はここまで進んでいるのか。相談窓口等あるが、当事者達にとっては、何処に行けば自分の悩み、問題点等安心して相談に応じてくれるのか不安が有ると思う。	障がい分野におけるピアサポーターについては、市内に3ヶ所ある地域活動支援センターI型（障害者総合支援法に基づく障がいのあるかたの支援施設）において、主に精神障がいのあるかたを対象に、自らの障がいに基づく経験を活かしながら、同じ障がいのあるかたのサポートを行うにあたって必要な知識等について学ぶ講座が実施されております。 本市におきましては、引き続き、高齢者や障がい者、子どもなど誰もが地域で安心して暮らせるよう、地域の中で共に助け合い、支援やサービスを受けられる体制づくりに取り組んでまいります。

【その他要望など】

No.	資料	その他の意見・要望など
3	-	知的障がい児者の特性は、その人の性格や癖のように思われがちであるが、それも含めて本人である。知的障がいの理解をもう少し深めていただきたく、民生委員、児童委員の方に疑似体験を提案したいと思う。障がい者にとってやさしい町づくりに、つながっていくのではないかなと思う。 以前、開催された相談員研修会のおり、地域相談支援事業所との、ワークショップが好評であったと記憶している。また、再開をお願いする。 障がい児・者福祉計画の中に「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」等組み入れてほしい。保健所では障がい特性への認識が薄いので不安である。
4	-	コロナ禍の中で書面開催はとても残念に思う。せめて、Zoom等でリモート開催を望む。 私はPTA活動を行いながら、町会主に子ども会の行事、又、会社では障害者雇用を行っている。いろいろと、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思っている。